

協賛団体における技術者倫理に関する
アンケート結果報告

【HP 公開版】

日本技術士会九州本部倫理委員会

2025 年 4 月

1 目的

近年、技術者倫理について関心が高まっている。

このような状況の中で、当本部で支援をいただいている協賛団体の方々はどのように考えておられるか、団体の皆様から技術者倫理に関する声を聴くとともに、その声を当本部倫理委員会の活動に反映させていくこと、そして我々が蓄積してきた技術者倫理に関する知識や情報をどのような形で還元できるかを検討していく上で資料を収集することを目的としてアンケートを実施した。

2 アンケート実施方法及び回収状況

(1) アンケート作成

アンケートは、当本部倫理委員会の教育啓発タスクチームが中心として質問事項及び回答にかかる選択肢等を検討して作成した。

(2) 回答方法

アンケートについては、質問事項などを当本部に参画していただいている全協賛団体に郵送で送付し、回答は Google フォームで回答していただく方法とした。

(3) アンケート実施期間：2024 年 8 月 20 日～9 月 6 日（18 日間）

(4) アンケート回収結果

- ・協賛団体数：74 社（調査実施時点）
- ・回答団体数：31 社（回収率 42.9%）
- ・アンケート集計資料：資料－3 数値集計（3-1）及び回答率集計（3-2）

3 技術者倫理教育に関するアンケート質問事項

■基本事項

Q 1 業態をお尋ねします。

- ・建設コンサルタント
- ・地質調査
- ・支援業務
- ・その他

Q 2 協賛団体（本社、又は支店として参加）としての従業員規模

- ・100 名以上
- ・50 名以上 100 名未満
- ・10 名以上、50 名未満
- ・10 名未満
- ・回答保留

■技術者倫理教育に関する関心や取り組み

Q 3 技術者倫理教育への関心

- ・大いに関心あり
- ・少し関心あり
- ・あまり関心ない
- ・全く関心なし

Q 4 技術者倫理教育の取組み。

- ・取り組んでいる
- ・現在検討中
- ・将来は取り組みたい
- ・取り組む予定なし

Q 5 技術者倫理教育への取り組むきっかけ。

- ・過去の不適切な事例をもとに
- ・同業他社が実施
- ・外部からの要請
- ・社内からの要望
- ・経営層の判断
- ・その他（自由記述）

■技術者倫理教育の現状

Q 6 貴団体では技術者倫理教育を実施していますか。

- ・実施している
- ・検討中
- ・していない

Q 7 どのような形式で実施していますか。(複数回答可)

- ・外部研修会
- ・e ラーニング
- ・社内勉強会
- ・図書の講読
- ・その他(具体的に記入)

Q 8 技術者倫理教育の実施頻度はどれくらいですか。

- ・定期的(月1回以上)
- ・定期的(年1回以上)
- ・不定期
- ・実施していない

Q 9 1回あたりの時間

- ・1時間以上
- ・30分以上1時間未満
- ・30分未満
- ・特に決めていない

Q10 技術者倫理教育の内容やテーマはどのようなものですか。(複数回答)

- ・企業倫理とコンプライアンス
- ・環境倫理と持続可能な開発
- ・研究開発における倫理
- ・情報セキュリティとデータプライバシー
- ・公益と安全に関する倫理
- ・知的財産権と著作権
- ・技術者の社会的責任
- ・倫理的意思決定のプロセス
- ・事例研究とケーススタディ

- ・説明責任
- ・製造物責任
- ・技術者資格
- ・内部通報・内部告発
- ・技術者資格の国際的相互承認
- ・その他（具体的に記入）

■技術者倫理教育に対するニーズ

Q11 技術者倫理教育において必要と感じる点（自由記述）

Q12 技術者倫理教育に求めるものは何ですか。（複数回答）

- ・実践的なケーススタディ
- ・最新の法規制情報
- ・倫理に関する基本的な知識
- ・その他（具体的に記入）

Q13 技術者倫理教育をさらに充実させるために必要なサポートやリソースは何ですか。

- ・外部講師の派遣
- ・専門的な教材
- ・オンライン研修
- ・専門図書の紹介
- ・その他（具体的に記入）

Q14 日本技術士会九州本部では、協賛団体の会員に向けて、技術者倫理教育の支援を考えています。このことについて。

- ① ぜひ支援を受けてみたい。
- ② 内容によっては、支援を受けてみたい。
- ③ 特に必要はない。

Q15 ①、②を選択した方は、どのような支援を受けたいか。（複数回答）

- ・講師の派遣。
- ・社内講師の育成支援。
- ・他団体の講師を紹介
- ・専門図書の紹介
- ・必要なし。自社対応。
- ・その他（具体的な記述）。

Q16 ご意見・ご要望

(自由記述)

Q17 技術士会からの連絡希望される方は、下記事項をご回答ください。(任意回答)

Q17-1 協賛団体名：

Q17-2 回答者氏名：

Q17-3 回答者の役職

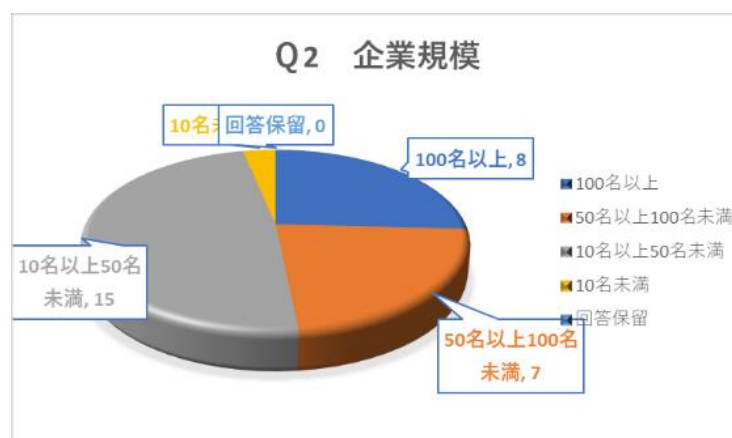
Q17-4 連絡先メールアドレス：

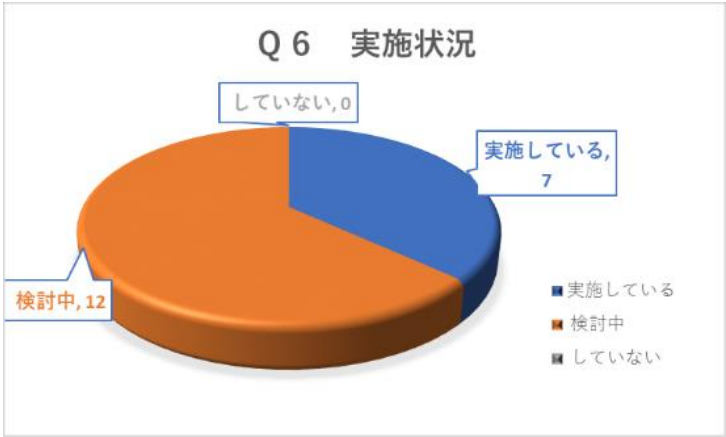
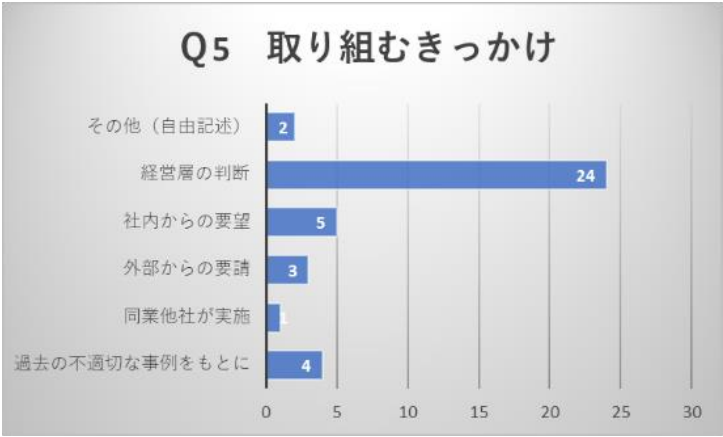
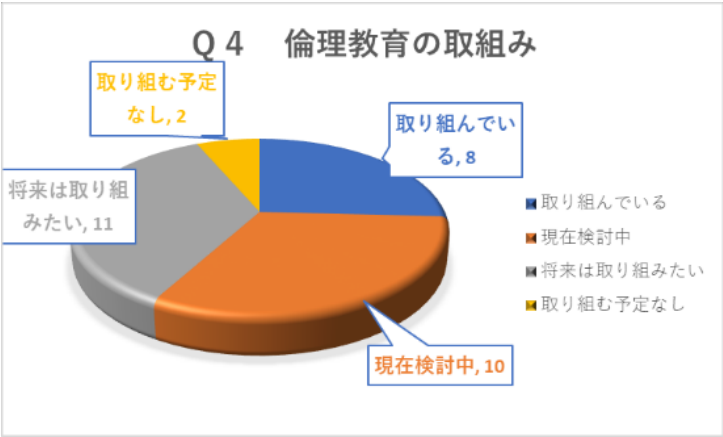
Q17-5 連絡先電話番号：

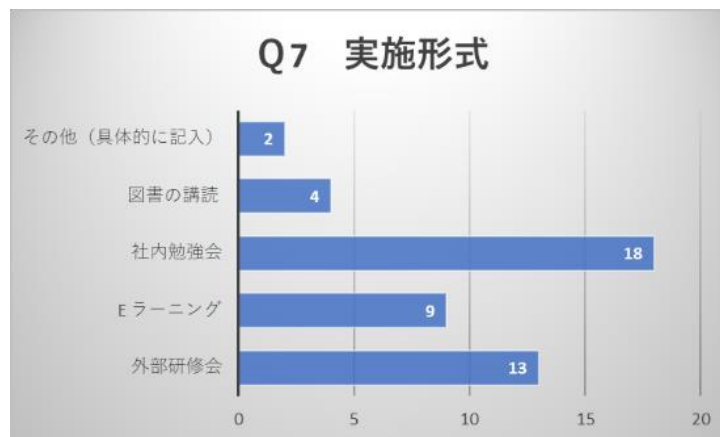
以上

4 アンケート結果

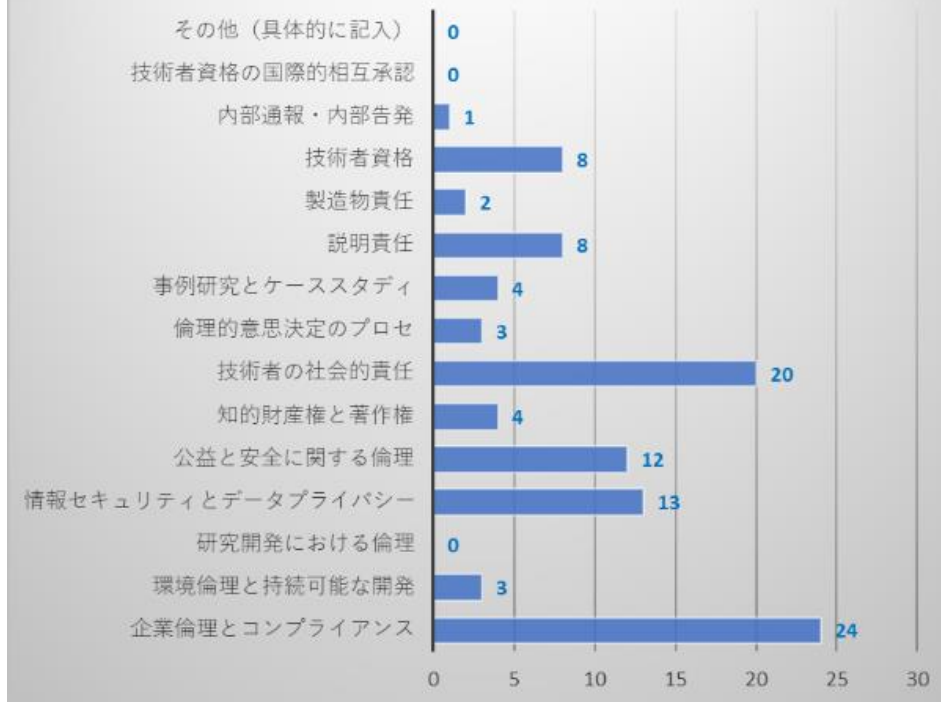
4-1 アンケート結果（実数表示）





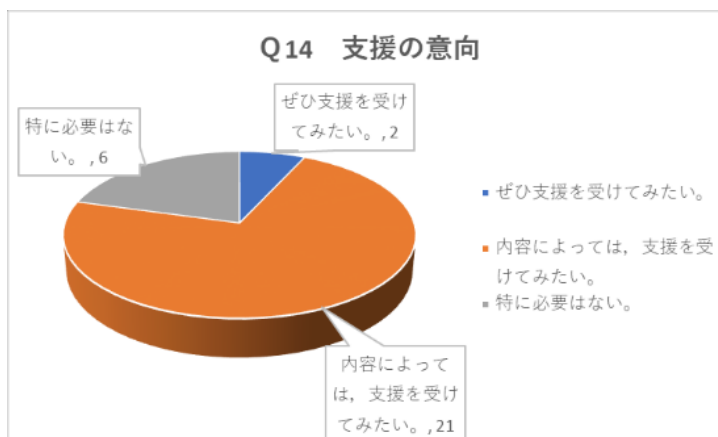
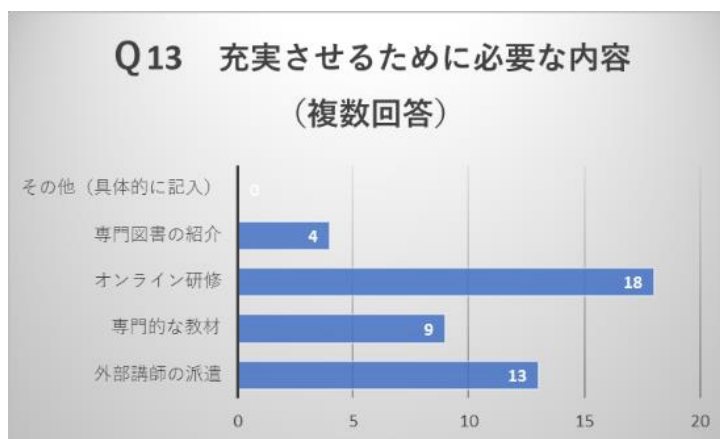
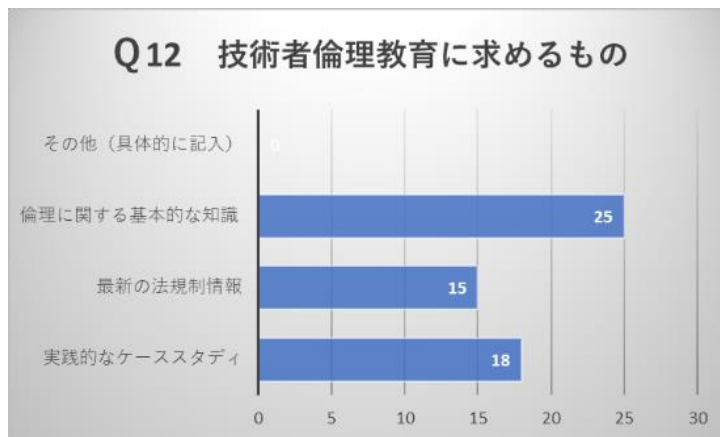


Q10 内容やテーマ（複数回答）

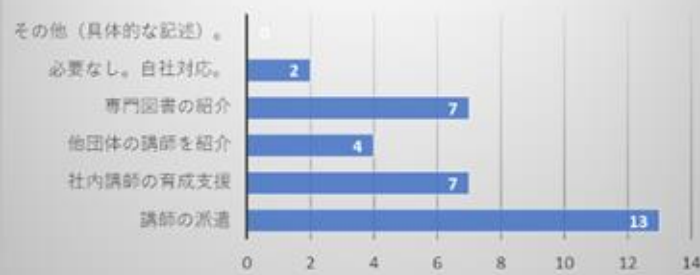


Q11 必要と感ずる点（自由回答）

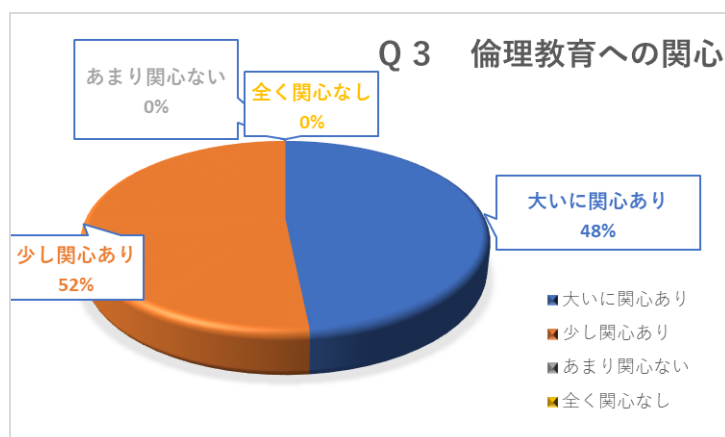
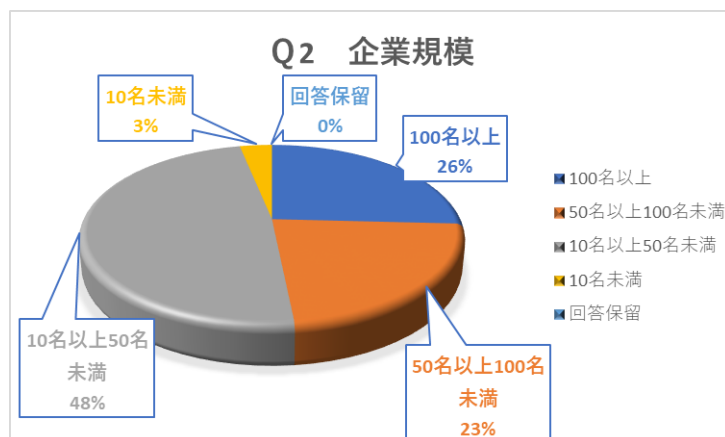
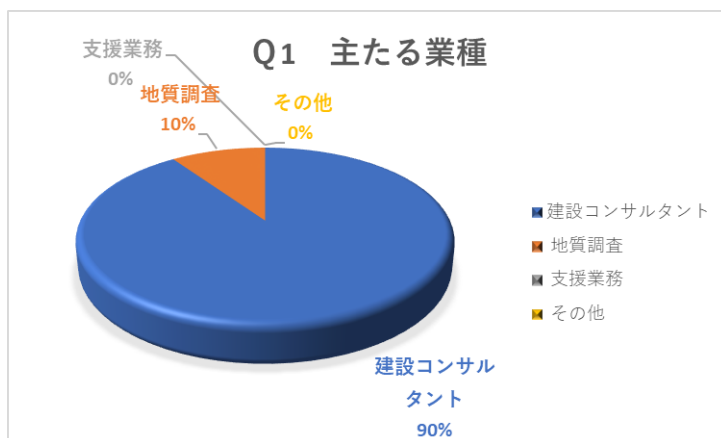
- ・技術者としての成長過程
- ・コンプライアンスの遵守
- ・企業の危機管理
- ・「公益の確保」を考えた場合には企業として取り組むことが必要
- ・水平展開、特に若年層社員の職業理念、技術者倫理に関する関心の低さ
- ・技術者の倫理観が世代によって相違がある。
- ・企業全体の統一的な倫理観が必要
- ・会社上層部の技術者倫理に取り組む熱意
- ・学習する機会や講師の確保等が課題
- ・技術者倫理の意識を維持していくために必要
- ・発注者と受注者との関係においてその関係を良好にするため etc.

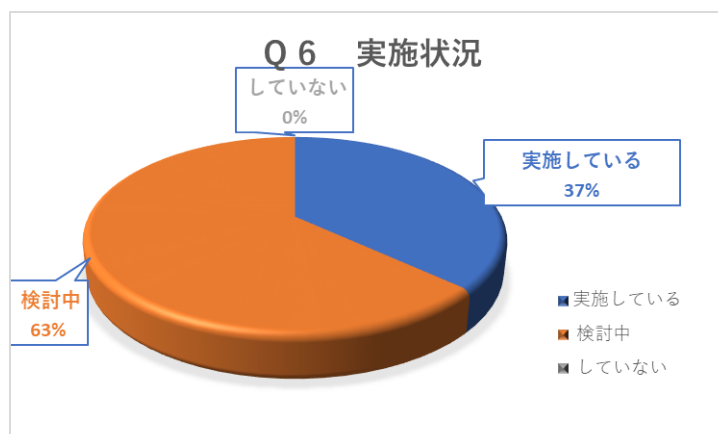
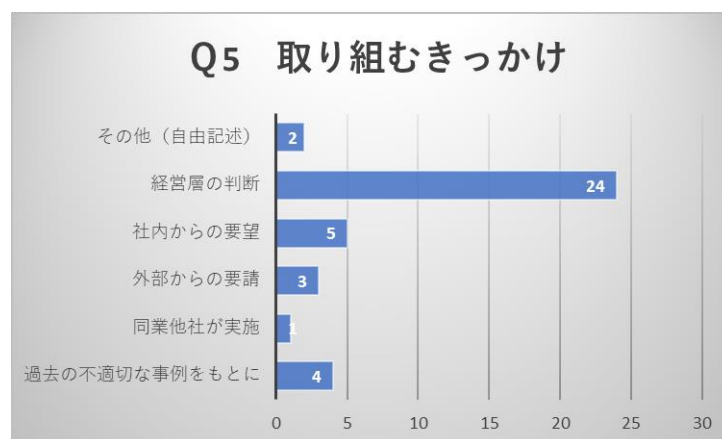
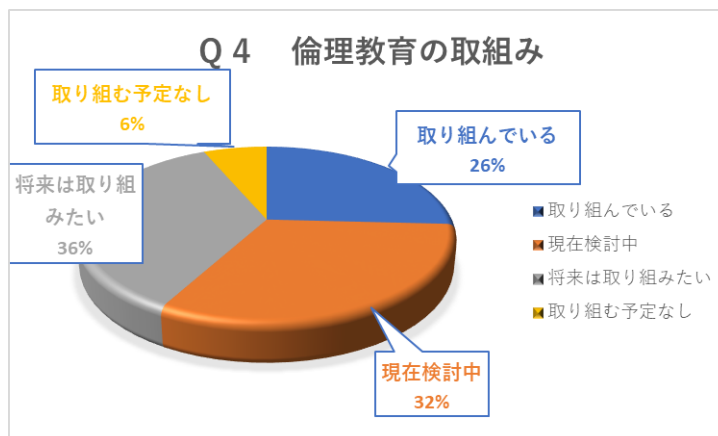


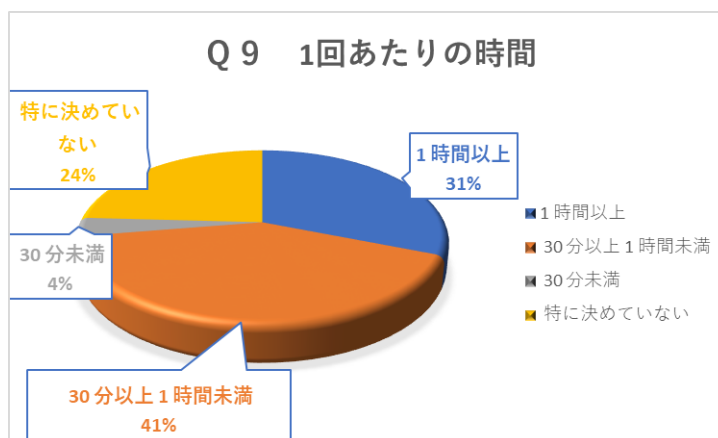
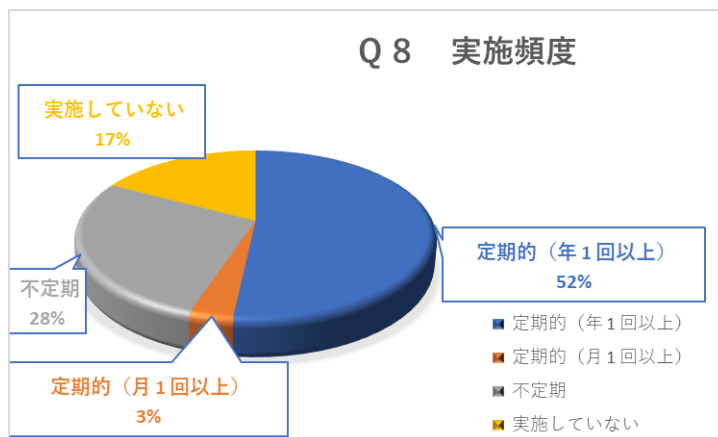
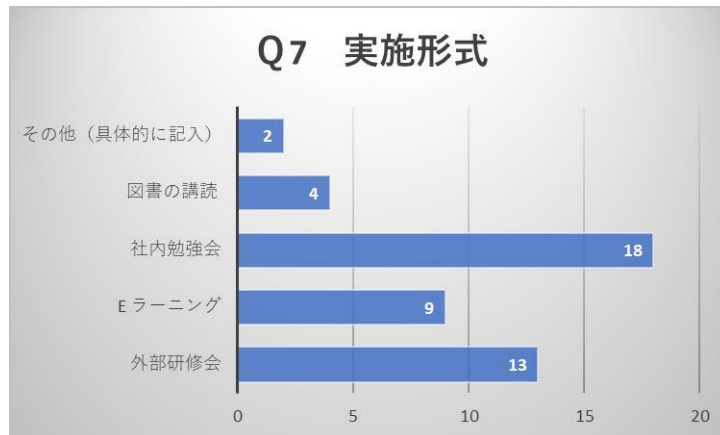
Q15 受けたい支援内容 (複数回答)

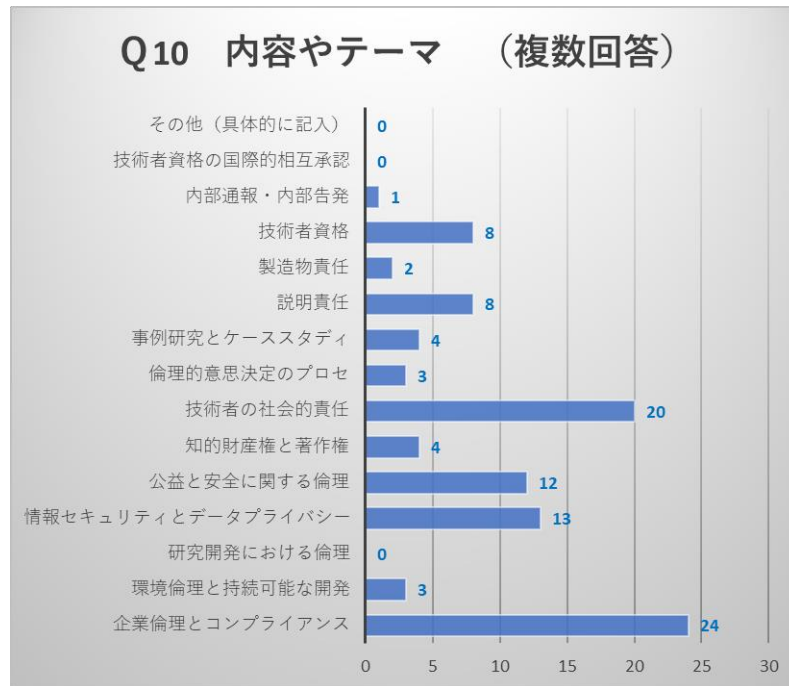


4-2 アンケート結果（％表示）









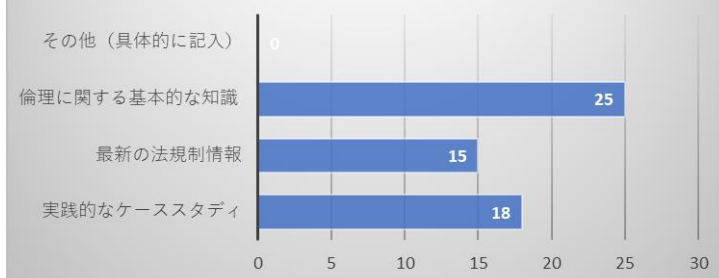
（実数表示）

Q11 必要と感ずる点（自由回答）

- ・ 技術者としての成長過程
- ・ コンプライアンスの遵守
- ・ 企業の危機管理
- ・ 「公益の確保」を考えた場合には企業として取り組むことが必要
- ・ 水平展開、特に若年層社員の職業理念、技術者倫理に関する関心の低さ
- ・ 技術者の倫理観が世代によって相違がある。
- ・ 企業全体の統一的な倫理観が必要
- ・ 会社上層部の技術者倫理に取り組む熱意
- ・ 学習する機会や講師の確保等が課題
- ・ 技術者倫理の意識を維持していくために必要
- ・ 発注者と受注者との関係においてその関係を良好にするため etc.

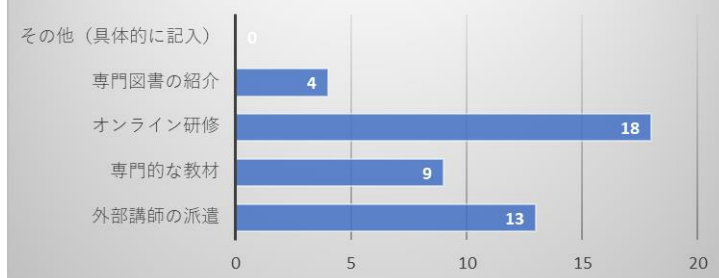
（実数表示）

Q12 技術者倫理教育に求めるもの



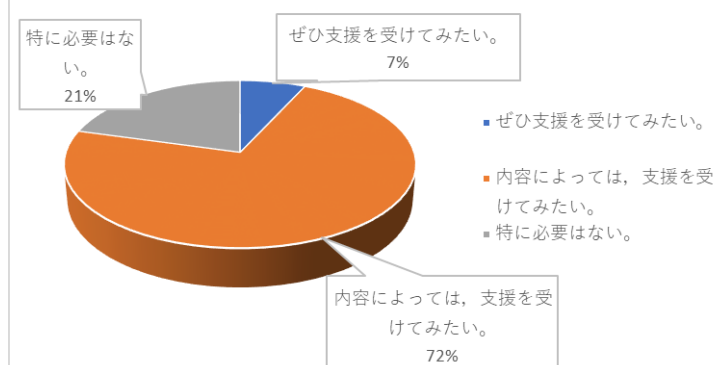
（実数表示）

Q13 充実させるために必要な内容（複数回答）

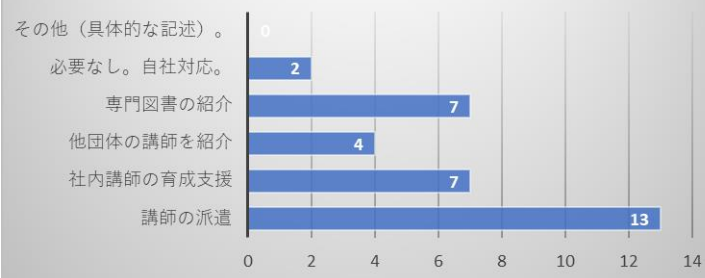


（実数表示）

Q14 支援の意向



Q15 受けたい支援内容 (複数回答)



5 まとめ

今回のアンケートに回答いただいた協賛団体からは、技術者倫理教育（以下「倫理教育」）について関心が高い結果であった。

倫理教育を実施している団体は限定的であり、現在検討中とする団体が多くあった。実施に向けてのきっかけは、経営層の判断が最も多く、団体内外からの要望などが次いでいる。

実施頻度については、実施中の団体や検討中の団体を含めた回答から年1回程度、1回あたりの実施時間は、30分以上1時間未満の層に多い結果となっている。

内容やテーマについては、企業倫理や技術者の社会的責任、情報セキュリティなどに関心が集まった結果となった。倫理教育に求める内容としては、倫理に関する基本的な内容、ケーススタディが求められている。倫理教育を充実させる方法としては、オンライン研修や外部講師の派遣に評価が集まっている。

支援の意向については、内容によっては受けてみたいとの回答が多くあり、受けない内容としては、講師の派遣に多く回答があった。

以上から、倫理教育について多くの団体に関心をもっていることがわかった。

一方、支援していく上では、倫理教育に時間を割かないで、支援内容の充実が重要であると考えられる。

6 謝辞

今回、多くの協賛団体様から回答をいただいた。

多忙な中ご回答いただいたことに、改めて謝意を表したい。ありがとうございました。

技術者倫理の教育・啓発は、公益社団法人として重要な責務であると考えている。

今回のご回答を踏まえ、実践的、充実した支援に向けて検討して参りたい。

今後もしばらくご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2025年4月30日